

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2020年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2021年5月10日 提出

1. 研究課題名	
「鴨川古写真 GIS データベース」の構築と河川環境の変遷分析に関する研究 (英文標記: Study on Construction of "Old photograph GIS database on Kamo River" and Transition Analysis of River Environment)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
飯塚 公藤 (いいつか たかふさ)	愛知大学地域政策学部・准教授
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
やの けいじ 矢野 桂司	立命館大学文学部・教授
たにばた ごお 谷端 郷	北海学園大学人文学部・講師
おおむら じゅんぞう 大邑 潤三	東京大学地震研究所・助教
さとう ひろたか 佐藤 弘隆	立命館大学文学部・特任助教
しまもと かずゆき 島本 多敬	滋賀県立琵琶湖博物館・学芸員

4. 研究課題の概要 (300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>本研究課題は、京都・鴨川に関する古写真のデジタル・アーカイブを進め、鴨川における河川環境の変遷を読み解くためのデータ基盤「鴨川古写真 GIS データベース」を構築することである。これまで、河川環境を対象とした古写真の系統的な収集および分析手法は未確立であった。鴨川においても景観の変遷を古写真から明らかにする研究は少ない。そこで、近現代の京都に関わる古写真のデジタル・アーカイブを進めている立命館大学アート・リサーチセンターの古写真データベースを活用して、鴨川が写る古写真の撮影地点を同定してGIS化することで、断片的に収集された古写真が統合され、河川環境の変遷を系統的に分析することができるようになる。加えて、関連機関と連携して鴨川に関する古写真のデジタル・アーカイブも充実させる。</p>

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

本研究の成果として、以下の2点にまとめられる。

【1. 写真データベースの更新】

2020年度は2018・2019年度にプラットフォームとして構築した「京都の河川景観 写真データベース」を用いて、掲載した写真の撮影地点を同定し、橋ごとに分類し、時系列に整理した。また、年代や撮影地点の異なる絵葉書類も新たに入手し、写真データベースの更新を図った。

【2. 鴨川の景観変化の分析】

各自で「京都の河川景観 写真データベース」の分析を進めつつ、Zoomを用いて鴨川景観研究会を8回実施した。議論のなかで、四条大橋が最も古写真数が多く、幅広い年代のものが揃っていることから、四条大橋を中心に分析を進めることに決めた。2020年3月に日本地理学会春季学術大会にて発表した内容を継続して作業し、分析した。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

- ①飯塚公藤著『近代河川舟運のGIS分析—淀川流域を中心に—』、単著、2020年9月、古今書院、飯塚公藤、211頁
- ②京都文化博物館編『伝える—災害の記憶 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料』、共編著、2021年3月、NHKサービスセンター、大邑潤三
- ③一般社団法人 日本民俗建築学会編『民家を知る旅：日本の民家見どころ案内』、共著、2020年6月、佐藤弘隆

(2) 論文

- ④大邑潤三「同和火災コレクション成立の背景とその来歴」、単著、2021年3月、伝える—災害の記憶 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料、132-141頁、査読無(招待有り)
- ⑤大邑潤三「「災害碑」という概念と分類方法の検討」、単著、2020年7月、歴史都市防災論文集14、115-122頁、査読有
- ⑥大邑潤三「特集デジタル・ヒストリーの諸実践：歴史災害研究におけるGIS活用の試み」、単著、2020年7月、クリオ34、139-140頁、査読無(招待有り)
- ⑦岩橋清美・大邑潤三・加納靖之「文理融合によって切り拓く歴史地震研究の現在：一八三〇年文政京都地震を事例にして」、共著、2020年6月、地方史研究70(3)、75-79頁、査読有
- ⑧服部健太郎・中西一郎・大邑潤三「日記の筆者が地震動を感じた地点の時間変化：近江八幡「市田家日記」の場合」、共著、2020年、地震第2輯73、65-68頁、査読有
- ⑨大邑潤三「1925年北但馬地震における震央付近の人的被害と救援活動：海軍史料の分析を中心に」、単著、2020年、歴史地震35号、177-186頁、査読有
- ⑩佐藤弘隆・武内樹治・今村聡・矢野桂司「「祇園祭デジタル・ミュージアム2020」の構築・公開について」、共著、2021年、E-journal GEO16(1)、87-101頁、査読有
- ⑪佐藤弘隆「近代京都における町文書を用いた町内景観の復原—京都市東山区「弓矢町文書」の性格と復原方法の検討—」、単著、2021年、アート・リサーチ21、19-30頁、査読有
- ⑫佐藤弘隆「新型コロナウイルス感染症の流行下におけるフィールドワーク系授業の実」、単著、2021年、記念誌：村上忠喜先生還暦記念日本民俗学講習会、査読無
- ⑬佐藤弘隆「2019年度秋の見学会報告 丹後の漁村家屋にみる文化的景観」、単著、2020年、民俗建築157、37-42頁、査読無

(3) 研究発表等

- ⑭飯塚公藤「英国における河川・運河の舟運利用—2012・2013年調査報告—」、2020年9月、地理学サロン、オンライン、査読無
- ⑮大邑潤三「「災害碑」という概念と分類方法の検討」、2020年12月、第14回歴史都市防災シンポジウム、査読無
- ⑯大邑潤三「1830年文政京都地震における建物被害の特徴と人的被害の要因」、2020年10月、日本地震学会2020年度秋季大会、査読無
- ⑰服部健太郎・中西一郎・大邑潤三「Temporal variation of the number of felt earthquakes recorded in the Omihachiman Ichida Family Diary: before and after the 1854 Iga-Ueno and 1854 Tokai-Nankai earthquakes (1842-1868)」、2020年10月、日本地震学会2020年度秋季大会、査読無

- ⑱ 大邑潤三「1830年文政京都地震による人的被害の発生要因」、2020年9月、第37回歴史地震研究会(オンライン伊賀大会)、査読無
- ⑲ 岩橋清美・加納靖之・大邑潤三「比叡山周辺地域にみる1830年京都地震・1854年伊賀上野地震の被害状況の分析」、2020年7月、JpGU-AGU Joint Meeting 2020、査読無
- ⑳ 大邑潤三「「災害碑」が抱える問題点と分類方法に関する考察」、2020年7月、JpGU-AGU Joint Meeting 2020、査読無
- (5) その他研究活動(報道発表や講演会等)
- ㉑ 飯塚公藤「招待講演:琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏における近代舟運の変遷」、琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 兼 第22回近畿水環境交流会、2020年11月21日
- ㉒ 飯塚公藤「新聞報道:鴨川の治水史古写真で分析」、京都新聞 夕刊1面、2020年10月5日
- (6) 受賞学術賞
- 大邑潤三「NPO法人 知的資源イニシアティブ Library of the Year 2020 大賞 みんなで翻刻」、2020年11月
- ㉓ 佐藤弘隆「公益社団法人 都市住宅学会 都市住宅学会業績賞」2020年10月
- (7) 科学研究費助成事業
- ㉔ 飯塚公藤「東海地方における近代水陸交通の地域的変化に関する歴史 GIS 研究」、若手研究、2018年4月-2021年3月、代表
- ㉕ 飯塚公藤「没入型景観を構成する曲線の定式化手法の開発 一人の視覚特性に着目して」、基盤研究(C)、2020年4月-2023年3月、研究分担者
- ㉖ 谷端郷「「地域の文脈」モデルを用いた歴史災害研究の提案—昭和戦前期の都市水害を事例に—」、若手研究、2019年4月-2021年3月、代表
- ㉗ 佐藤弘隆「祭礼存続のストラテジーに関する都市社会地理学的研究」、若手研究、2020年4月-2022年3月、代表
- (8) 競争的資金等(科研費を除く)
- ㉘ 大邑潤三・加納靖之・橋本雄太「歴史災害記録のGISデータ形式での整備と公開・頒布システムの構築」、国立歴史民俗博物館 2020年度国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究(公募型)、2020年5月-2021年3月、代表